

# F1 大学における被服教育の新しい方向

岐阜女短大 ○林 豊子 山田令子 岐阜女大 岩佐美代子 白井浜尾  
安田富士子 愛知淑徳短大 竹下弓子 東海学園女短大 辻 啓子

## 目的

先に家政系四年制大学及び短期大学における被服学関係のカリキュラムについての現状分析を行い、いくつかの問題点を明らかにすることができた。今回は更に新しい被服教育の方向性を探るため、現職教員が学生の実態をふまえて、いかに被服教育の実践を試みようとしているかについて調査を行い考察した結果を報告する。

## 方法

1) 調査対象及び方法：愛知、岐阜、三重3県下の家政系四年制大学・短期大学及び教育系大学を対象に、被服関係科目を10分野に分け、各分野から年齢構成も配慮し、被調査者を抽出した。調査方法は調査用紙を作成し、留置法で行った。回収率は65.5%で、その内訳は四年制大学22名、短期大学35名である。2) 調査内容：被服関係科目の必要度と授業形態、新たに開講したい分野、学生に対する指導目標、被服構成実習に対する考え、学生の志向と動向と生活態度である。

## 結果

1) 被服関係科目の必要度は、四大、短大とも被服系は意匠学・美学関係、被服構成学関係の分野が高く家政系は繊維学・被服材料学関係の分野が高い。2) 新たに開講したい分野は、四大は被服心理学、短大はファッションビジネス関係が考えられている。3) 学生に対する指導目標は、四大は専門型を、短大は教養型を指向している。4) 被服構成実習に対する考え方は、四大、短大とも被服のなりたちを理解するため必要であるが多い。